

# グローバル・リテラシーとは何か： マイノリティー言語と 社会の視点から考える



"What is global literacy: A look from the viewpoint of minority languages and societies"

世界のグローバル化によって、国境を越えた経済活動をはじめ、国際語英語の普及など、均質化が進む一方で、個々の言語文化の独自性がますます意識されるようになってきました。多様性がまさにグローバル化のキーワードになっている現代社会において、社会を支えるために必要なグローバル・リテラシーをどのように考えればよいのでしょうか。本講演会では、消滅に瀕している言語や、マイノリティーと呼ばれるコミュニティー研究の第一線で活躍している研究者から最近の研究の動向や研究意義を伺います。講演内容を通して、グローバル時代、とりわけ日本の若者に求められるグローバル・リテラシーや、21 世紀の外語大の役割と使命についていっしょに考えることができましたらと願っています。

## プログラム (第一弾)

日時：2017 年 6 月 19 日 (月) 14:50-16:20

場所：神田外語大学 7 号館クリスタルホール

講演者：

**梁彰容氏 Yang, Changyong**

「危機に瀕する言語の復興を通して言語意識を高めることができるか」  
"How to raise linguistic awareness through revitalization of endangered languages"

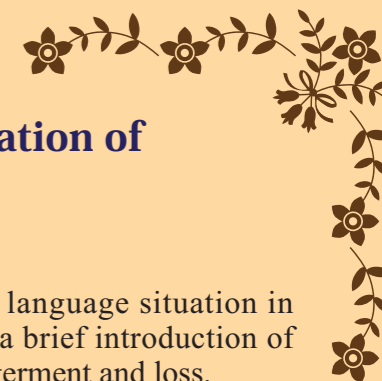
**高龍珍氏 Koh, Yongjin**

「グローバル・リテラシーの向上のために：グローバル化を目指している済州島の大学生の事例から考える」  
"Let's think about global literacy: Case studies of Jeju university students who take aim at globalization"

司会：矢頭典枝 先生

(本学英米語学科准教授・当研究所副所長)

使用言語：英語または日本語



## How to raise linguistic awareness through revitalization of endangered languages

講演者：梁彰容 氏 Yang, Changyong

This talk is designed to provide a general understanding on the world's language situation in general and language endangerment in specific. For this, I will start with a brief introduction of languages around the world and then move on to talk about language endangerment and loss. Over the past few decades, language endangerment has been a main topic among language researchers who aim to find out how to revitalize and maintain linguistic diversity. Therefore, by drawing on some case studies, I will focus on the efforts successfully made for language preservation and revitalization. I hope this talk will not only serve as a practical guide to raise linguistic awareness particularly for language revitalization and language preservation efforts, but also provides some insights into the understanding of language learning process through revitalization of endangered languages.

済州大学校英語教育学科教授・主任、ハワイ大学 (マノア校) 客員教授  
コロラド大学言語学修士、フロリダ大学言語学博士。  
専門は、理論言語学、言語類型論、消滅の危機に瀕した言語 (特に済州語) の記録保存と言語復興  
韓国言語研究会会長。学会誌 The Modern English Education Society と The Korean Association of Linguistics 編集委員。近著には、Toward a linguistically realistic assessment of language vitality: The case of Jeju. Language Documentation and Conservation. University of Hawaii at Manoa (共著、2017)、Understanding of status quo of Jeju in language community of Jeju. Humanities Studies East and West 51, pp.131-159 (2016)、A sociolinguistic study of language-mixing: In case of Korean-American advertising. Journal of Linguistic Studies. 20(1), pp.133-149 (2015) などがある。



## グローバル・リテラシーの向上のために： グローバル化を目指している済州島の大学生の事例から考える

講演者：高龍珍 氏 Koh, Yongjin

済州漢拏大学校 国際観光ホテル学部 観光日本語科教授。韓国啓明大学校博士、日本筑波大学大学院文芸言語研究科研究員  
専門は、社会言語学、語用論、ユネスコに指定された「消滅危機言語」の済州語の保存に関する研究



済州国際言語学会、韓国現代言語学会、日本語学会常任理事、韓国言語研究会、韓国日本近代学会監事、韓国言語研究会副会長などを歴任

本講演では、国際都市と観光地を目指している済州島 (チェジュド) における言語事情を概観しながら、なかでもローカル語としての済州語 (チェジュオ) が地域のグローバル化や多言語政策のなかでどのように位置づけられているかを紹介する。チェジュの若者たちは普段からローカル語と標準語の 2 言語を使い分けており、さらに観光業への就職や海外の進出のために英語や日本語、中国語など多様な外国語を学習していることから、いわゆるグローバル・リテラシー習得への意識が高いと言われている。講演ではハンラ大学が海外インターンシップ・プログラムのために取り組んでいる外国語教育の事例を紹介し、またそれに参加している大学生が、グローバル化をどのように捉え、自分自身のグローバル・リテラシーをどのように管理しているかをインタビュー調査を通して取り上げたい。